

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

国内株式および国内債券市場 2021年1月～3月

運用先市場の状況

作成基準日 2021年3月31日

○国内市場

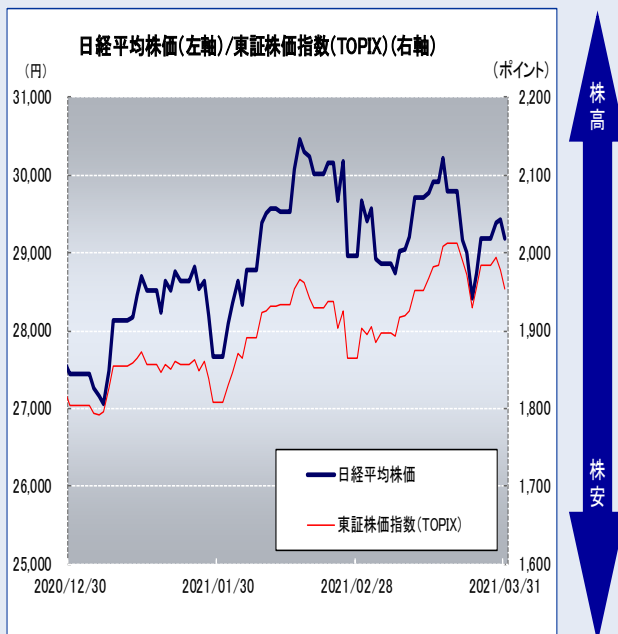
・株式市場

国内株式は大幅に上昇しました。

1月は上旬、米国で大型財政出動への期待が高まったことや、米主要株価3指数が高値を更新する動きを受けて、上昇しました。下旬は、不安定な米国株式市場の値動きが嫌気され、軟調な展開となりました。

2月は上旬、国内企業の決算での業績が製造業を中心に事前予想を上振れて推移していることや、米国追加経済対策の成立への期待の高まりから、上昇しました。その後も続伸しましたが、下旬には、米国長期金利の急上昇や米国株の下落などが市場心理を悪化させ、月末にかけて下落しました。

3月は上旬、米国長期金利上昇への警戒感から、一進一退の展開となりました。中旬は、米国で大型の追加経済対策法案の成立などを受けて上昇しました。下旬は、半導体不足による自動車関連企業の業績先行き懸念や、米投資会社の巨額損失発生などが市場心理を悪化させやや軟調な展開となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

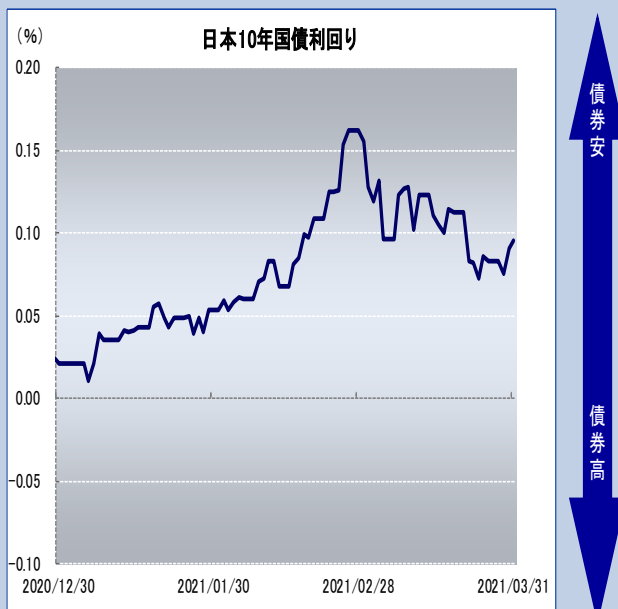
・債券市場

国内長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。

1月は上旬、米長期金利が急上昇すると、国内長期金利も小幅に上昇しました。その後は、金利上昇幅を縮小する場面もありましたが、日銀金融政策決定会合において、長期金利のある程度の変動は金融安定に資するとの意見が出ていたことが分かり、再度金利が上昇しました。

2月は上旬、米長期金利が上昇基調で推移するなか、日銀による金融政策の点検により、長期金利の許容変動幅拡大への警戒も相まって、上昇基調で推移しました。月末にかけては、米経済対策による景気回復期待の高まり等を受けて、国内長期金利も上昇しました。

3月は上旬、日銀総裁の長期金利の許容変動幅の拡大を否定する発言から、長期金利が急低下する場面がありました。月末にかけては、海外金利が上昇する中で金利は下げ渋る展開となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関 : 三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2021年1月～3月

運用先市場の状況

作成基準日 2021年3月31日

○外国市場

・株式市場

米国株式市場は大きく上昇しました。

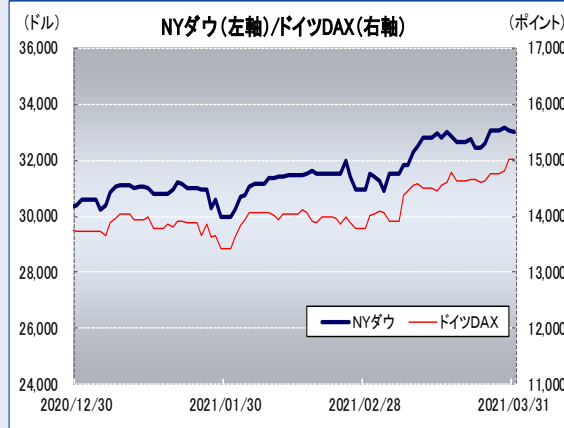
1月は、月初にバイデン新政権による追加景気対策への期待の高まりなどから上昇しましたが、その後は一部の個人投資家の投機的ともいえる投資行動に対する警戒感などから下落し、概ね横ばいとなりました。

2月の前半は、国内の感染拡大ペースの減速などを背景に経済の正常化期待が高まり、上昇しました。月末にかけて、長期金利が大幅に上昇する局面では下落しましたが、月を通してみると上昇しました。

3月は上旬、金利上昇に対する警戒感が根強く、下落して始まりましたが、月末にかけては、バイデン大統領によるワクチン接種数の目標引き上げやインフラ投資計画への期待から上昇しました。

欧州市場も上昇しました。

ワクチン供給の遅延問題などが投資家心理の悪化に繋がりましたが、3月には、ECB(欧州中央銀行)理事会で、PEPP(パンデミック緊急購入プログラム)で国債などの購入ペースの加速が発表されました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

米国長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。

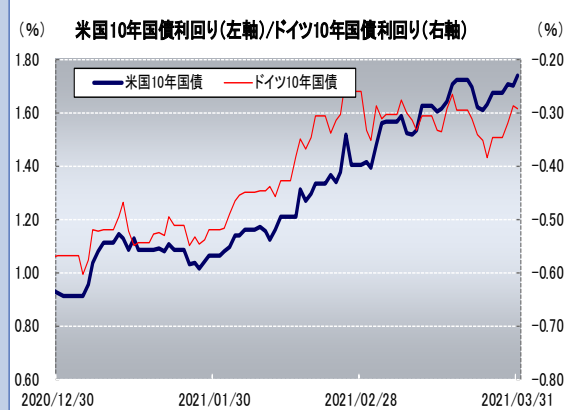
1月は、ジョージア州上院決選投票で民主党が議席を確保し、大統領選と上下両院を民主党が主導する「トリプルブルー」となったことを受けて財政支出拡大への期待が高まり、金利が大幅に上昇しました。

2月も、ワクチンの普及や追加経済対策による景気の回復期待が高まったことから、引き続き金利は大幅に上昇しました。

3月に入っても、大規模な新型コロナウイルス経済対策法案が成立したことなどを背景に、金利は上昇基調で推移しました。また、FRBが金利上昇を容認する姿勢を見せたことも金利上昇の要因となりました。

ドイツ長期金利(10年国債利回り)も上昇しました。

米国長期金利の上昇につれてドイツ金利も上昇しましたが、3月に入ってからECB(欧州中央銀行)がPEPP(パンデミック緊急購入プログラム)での国債などの購入ペースの加速を示唆したことなどから、もみ合いに転じました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

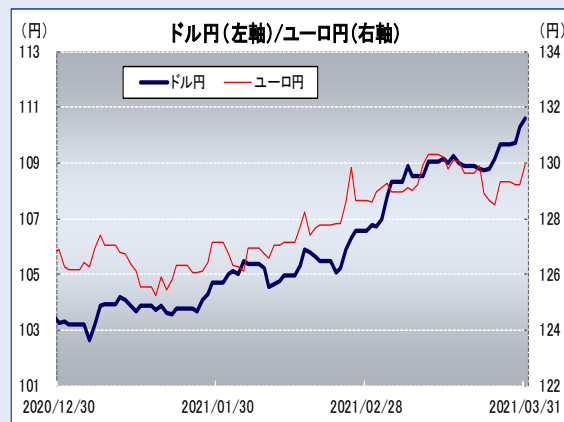
○為替市場

米ドル/円、ユーロ/円はともに円安となりました。

1月の米ドル/円は、米金利上昇を背景に米ドル高となりました。ユーロ/円は、株価の上昇などリスク選好の動き一方で、イタリアでの政治不安の広がりや、ECB高官によるユーロ高率制などを受けて一進一退の展開となりました。

2月も米金利の大幅な上昇やリスク選好の動きを背景に米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、株価の上昇などリスク選好の動きや、イタリアでの政治不安の後退を受けてユーロ高・円安となりました。

3月も引き続き、米景気の先行き期待や米金利の上昇を背景に米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、株価の上昇などリスク選好の動きからユーロ高・円安となりましたが、欧州で新型コロナウイルスの感染再拡大が警戒される中、景気回復の遅れが懸念されたことが重石となり、ユーロの円に対する上昇は小幅にとどまりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。